

カレンダー

(ゴチックは本号に掲載の記事)

会 期	集 会 名 (会 場)	(掲 載 号)
学術集会・講習会		
2008年10月1日(水)～2009年2月23日(月)	平成20年度統計数理研究所公開講座	[442]
25日(土)～26日(日)	日本爬虫両棲類学会第47回大会(栃木県・栃木県総合教育センター)	[443]
25日(土)～26日(日)	ゲノムひろば2008 in 名古屋(名古屋市・名古屋大学豊田講堂・シンポジオン会議室)	[443]
30日(木)～11月1日(土)	第17回日本バイオイメージング学会学術集会および平成20年度日本バイオイメージング学会公開講座(千葉市・千葉大学けやき会館)	[440]
11月3日(月)	関西学院大学産学連携シンポジウム in 東大「発生・再生調節と内・外環境」(東京・東京大学武田ホール)	[443]
4日(火)	平成20年度統計数理研究所公開講演会「大地震と危険度予測」(東京・統計数理研究所)	[442]
5日(水)	醸造用資材規格協議会セミナー(神戸市・神戸サンセンタープラザ)	[443]
8日(土)	認定 NPO 法人総合画像研究支援第5回可視化技術ワークショップ「バイオイメージングテクノロジーを用いた微生物多様性へのアプローチ」(東京・日本女子大学新泉山館国際交流センター)	[442]
8日(土)	平成20年度日本ビタミン学会市民公開講座「ビタミン, サプリメントを賢く使う最新情報」(奈良市・奈良女子大学講堂)	[443]
13日(木)～14日(金)	酵素工学会30周年記念シンポジウム(千葉県・かずさアカデミアホール)	[440]
15日(土)	第4回日本バイオリギング研究会シンポジウム「環境変動と大型海産魚類の応答・バイオリギングの貢献と課題」(長崎市・長崎大学医学部良順会館)	[442]
15日(土)～16日(日)	第59回日本電気泳動学会総会(神奈川県・麻布大学百周年記念ホール)	[438]
21日(金)～23日(日)	平成20年度菌学教育研究会「菌類の多様性と分類」後期講座(つくば市・菌学教育研究会筑波センター)	[443]
22日(土)	2008年度藻類談話会(京都市・京都大学大学院人間環境学研究所棟)	[442]
29日(土)～30日(日)	「植物色素研究会20周年記念大会(熊本・2008)」(熊本市・熊本大学黒髪キャンパス工学部百周年記念館)	[442]
12月2日(火)～5日(金)	第31回極域生物シンポジウム(東京・国立極地研究所)	[440]
13日(土)	第45回好塩微生物研究会(奈良市・帝塚山大学学園前キャンパス16号館)	[441]

生物科学ニュースに原稿をお送りいただく場合の詳細については、本ニュースの巻末をご覧ください。

生物科学ニュース編集委員会 電話 03-3814-5461 (10時半から4時まで (水曜日のみ))

FAX 03-3814-6216 E-mail bsnews@bsj.or.jp

(社)日本植物学会、(社)日本動物学会へのお問い合わせは下記のとおりをお願いします。

(社)日本植物学会 電話 03-3814-5675 (9時半から4時半まで)

FAX 03-3814-5352 E-mail bsj@bsj.or.jp

(社)日本動物学会 電話 03-3814-5461 (9時から4時まで)

FAX 03-3814-6216 E-mail zsj-society@umin.net

13日(土) 平成20年度ビタミンの日講演会「健やかに美しくービタミンの大切さー」(岡山市・岡山大学創立50周年記念館)〔443〕

24日(水)～2009年1月7日(水) ウインター・サイエンスキャンプ '08～'09〔443〕

国際会議

2008年12月1日(月)～4日(木)第3回アジア染色体コロキウム(ACC3; The 3rd Asian Chromosome Colloquium 2008)染色体研究の新展開ーアジア染色体研究ネットワークの構築ー(Advances in Chromosome SciencesーDevelopment of Chromosome Research Network in Asiaー)(大阪府・大阪大学コンベンションセンター)〔440〕

2009年9月20日(日)～24日(木)国際甲殻類学会東京大会(The Crustacean Society Summer Meeting, Tokyo, Japan)(東京・東京海洋大学)〔440〕

公 募

2008年10月31日(金) 第12回尾瀬賞〔439〕
 31日(金) 第29回女性科学者に明るく未来をの会「猿橋賞」〔440〕
 31日(金) 平成20年度「風戸賞」〔441〕
 11月20日(木) 第8回内藤記念若手研究者海外派遣助成金(冬季)〔438〕
 20日(木) 第34回内藤記念刊行助成金(学術図書)〔438〕
 20日(木) 第34回内藤記念刊行助成金(定期刊行物ー学術雑誌)〔438〕
28日(金) 平成21年度東京大学海洋研究所共同利用研究〔443〕
 12月1日(月) 第11回大学女性協会守田科学研究奨励賞〔441〕
 10日(水) 第47回(平成20年度)下中科学研究助成金〔440〕
 10日(水) 平成20年度(財)昭和聖徳記念財団学術研究助成〔442〕
 19日(金) 平成20年度「風戸研究奨励賞」〔441〕
20日(土) (財)ソルト・サイエンス研究財団平成21年度の研究助成〔443〕
 2009年2月20日(金) 第8回内藤記念若手研究者海外派遣助成金(春季)〔438〕
 27日(金) 2009年度山田科学振興財団研究援助〔442〕

求 人

2008年11月14日(金) 北海道大学大学院先端生命科学研究所先端生体制御科学分野教授1名〔443〕
 28日(金) 北海道大学大学院理学研究院生命理学部門生命機能科学分野で准教授1名〔443〕
 12月15日(月) 北海道大学低温科学研究所生物環境部門助教1名〔443〕

学術集会

●日本爬虫両棲類学会第47回大会が、10月25日(土)～26日(日)に、栃木県総合教育センターで開かれます。

一般講演、総会をおこない、10月25日(土)夕に懇親会を予定しています。

大会参加費は3,000円(締め切り後は+500円、懇親会費は4,000円(締め切り後は+500円)です。詳細は下記にお問い合わせ下さい。

【問合先】 320-0865 栃木県宇都宮市睦町2-2 栃木県立博物館 日本爬虫両棲類学会第47回大会事務局 林光武 TEL 028-634-1311 FAX 028-634-1310 Email imori@muse.pref.tochigi.lg.jp

●ゲノムひろば2008 in 名古屋が、10月25日(土)～26日(日)(午前10時～午後6時)に、名古屋大学豊田講堂・シンポジオン会議室(名古屋市千種区)で開かれます。
 全国から最先端の研究者が集い、来場の皆様に自らの

研究を伝え、問いに応えるという双方向の交流イベントです。約150名の研究者による「ゲノム研究勢ぞろい」を中心に、研究の実際をわかりやすく紹介します。

約150名の研究者が実験に用いる生物やDNA、顕微鏡や実験機材・コンピュータを交えて研究の一端をわかりやすく解説し、疑問・質問にこたえる「ゲノム研究勢ぞろい」、基礎知識を解説する「そもそもゲノム」、ゲノム研究最前線からの研究レポートの「ゲノムセミナー」や、サイエンスカフェ形式の「おしゃべりゲノム」。入場は無料です。但し「ゲノムセミナー」のみ申込が必要です。詳細はホームページをご覧ください。

【問合せ】「ゲノムひろば2008」事務局 TEL 03-3958-5296 FAX 03-5966-5773 E-mail hirobag@genome-sci.jp ホームページ <http://hiroba.genome-sci.jp>

●**関西学院大学産学連携シンポジウム in 東大「発生・再生調節と内・外環境」**が、11月3日(月)(午前9時55分～午後5時)に、東京大学武田ホール(本郷キャンパス浅野地区)で開かれます。内容は次のとおりです。

基調講演「脊椎動物の発生と器官形成のメカニズム」(東大・浅島 誠)／「線虫の分泌型メタロプロテアーゼによる器官形成の制御」(関西学院大理工・西脇清二)、「哺乳類の成体脳でおくる神経新生の仕組み－嗅覚系をモデルとして－」(東大院医・山口正洋)、「環境因子と発生過程－環境化学物質が発生過程に及ぼす影響－」(関西学院大理工・今岡 進)、「細胞接着分子は、どのようにして特定の部位に局在するか？」(関西学院大理工・鈴木信太郎)、「シグナル分子の新しい機能発現機構と上皮組織の形態調節」(京都大再生医科学研・平井洋平)、「複製ストレスチェックポイント制御機構の分子機構」(関西学院大理工・田中克典)、「核移植技術による個体の発生－絶滅動物の復活へ向けて－」(理研発生再生科学総合研究セ、関西学院大・若山照彦)

参加申込の詳細は、www.adthree.com/kwansei-bioをご覧ください。

【問合せ】164-0003 東京都中野区東中野4-27-37 (株)アドスリー TEL 03-5925-2840 E-mail kwansei-bio@adthree.com

●**醸造用資材規格協議会セミナー**が、11月5日(水)(午前10時～午後4時)に、神戸サンセンタープラザ西館6F 9号室(神戸市中央区三宮2-11-1-604)で開かれます。内容は次のとおりです。

「告示物品の取り扱いと酒類行政の現状」(国税庁・井本吉彦)、「清酒の国際化の現状と今後の予想」(中国新聞社・石田信夫)、「南部流麴造りの実際とその考え方」(南部杜氏・及川恒男)、「自由貿易交渉が日本酒を救う」(日本政策投資銀行・佐藤 淳)、「ドイツ市場での日本酒の現状と今後の展望」(ウエノグルメ・上野ミューラー佳子)

募集人員は90名(先着順)です。参加費は無料です。「参加者名・会社名・住所・電話番号」を明記の上 FAX で申し込んでください。

【申込・問合せ】114-0023 東京都北区滝野川2-6-30 日本醸造会館内 醸造用資材規格協議会 TEL 03-3910-3853 FAX 03-3910-3748

●**平成20年度日本ビタミン学会市民公開講座「ビタミン、サプリメントを賢く使う最新情報」**が、11月8日(土)(午後1時～5時)に、奈良女子大学講堂(奈良市北魚屋西町)で開かれます。内容は次のとおりです。

「抗加齢－アンチエイジングとビタミン・サプリメント」(京都府立医大・吉川敏一)、「子どもの発育とビタミン・サプリメント」(大阪医科大・玉井 浩)、「健康維持のための運動とビタミン・サプリメント」(京都大院人間環境・森谷敏夫)、「疲労とビタミン・サプリメント」(大阪市立大院医・渡辺恭良)、「健康食品・サプリメントによる健康被害」((独)国立健康栄養研・梅垣敬三)、パネルディスカッションと質疑応答。

参加費は無料です。参加の詳細は下記に問い合わせてください。

【問合せ】630-8506 奈良市北魚屋西町 奈良女子大学生活環境学部食物栄養学科 小城勝相 TEL & FAX 0742-20-3459 E-mail kojo@cc.nara-wu.ac.jp

【連絡先】606-8305 京都市左京区吉田河原町15-9 京大会館2階 日本ビタミン学会事務局 TEL 075-751-0314 FAX 075-751-2870 E-mail vsojkn@mbox.kyoto-inet.or.jp

●**平成20年度ビタミンの日講演会「健やかに美しく－ビタミンの大切さ－」**が、12月13日(土)(午後1時～5時)に、岡山大学創立50周年記念館(岡山市津島中1-1-1)で開かれます。内容は次のとおりです。

講演1) 成長と老化とビタミン：子どもが健やかに成長し、美しく老いるために(岡山済生会総合病院・田中弘之)、講演2) 健康と美容及び再生医療のためのビタミンC ((株)アスコルバイオ研、元岡山大・山本 格)、

講演3)はたらく B 群ビタミンと健康(岡山大院・虎谷哲夫)。

参加費は無料です。参加の詳細は下記に問い合わせてください。

【問合先】岡山大学大学院自然科学研究科 稲垣賢二
TEL 086-251-8299 E-mail kinagaki@cc.okayama-u.ac.jp

【連絡先】「ビタミンの日」委員会事務局 TEL 075-751-5657

講 習 会

●平成20年度菌学教育研究会「菌類の多様性と分類」後期講座が、11月21日(金)～23日(日)に、菌学教育研究会筑波センター(茨城県つくば市筑波2074-3-4)で開かれます。内容は次のとおりです。

平成20年度「菌類の多様性と分類」後期講座3日間コース:11月21日(金)「顕微鏡の使い方」(菌学教育研究会・浅井郁夫、土居祥兌)／22日(土)「室内環境のカビとその観察」(東京農大総合研究所、星葉科大・宇田川俊一)この講座では特に、高松塚古墳のカビ劣化(壁画の黒色の汚れ)の主原因菌の観察ができます。／23日(日)午前:「神奈川キノコの会紹介」(神奈川キノコの会・出川洋介)(+神奈川キノコの会員の講師1名を交渉中)、午後:スライド会(スライドをお持ちの方、ご持参ください。パワーポイント、ビデオも可)

なお、24日(月)には希望者にセンターの実習会場と顕微鏡などを開放します。

開催時間(目安)は、午前10:00～12:30 および午後13:30～17:00です。

募集人員は、1講座 11月21日は10名、22日は約20名、23日は約40名です。参加費は、1日につき 一般正会員3,000円 学生正会員2,000円(非会員の方は1,000円増)です。参加費・会費などの振込先は、加入者名菌学教育研究会 口座記号番号00160-5-4554です。

参加希望者は下記の問合先に連絡してください。交通手段、宿泊施設等詳細も問い合わせてください。

【問合・連絡先】

1) 300-4352 茨城県つくば市筑波2074

土居祥兌 TEL 090-5440-6882

E-mail ydsotowa@ce.wakwak.com

2) 190-0182 東京都西多摩郡日の出町平井2196-152

近藤和彦 TEL 042-597-1166

E-mail hinodekon@ybb.ne.jp

●ウインター・サイエンスキャンプ '08-'09の参加者を募集しています。

開催期間は2008年12月24日(水)～2009年1月7日(水)の期間中の2泊3日です。

最先端の研究成果や先進的な研究施設・実験装置等を有する大学(10会場)・公的研究機関(3会場)が冬休みの3日間、高等学校・中等教育学校後期課程・高等専門学校(1～3学年)等に在籍する生徒を受け入れ、ライフサイエンス、情報通信、環境、ナノテクノロジー・材料、ロボット工学、エネルギー、社会基盤、製造技術、(宇宙・海洋等の)フロンティア、水産学、地球科学等の分野において、第一線で活躍する研究者・技術者等による実験・実習を主体とした科学技術体験合宿プログラムを実施します。定員は受け入れ会場ごとに10～20名(合計192名)です。参加費は、無料(自宅～会場間の交通費は参加者負担)です。

募集要項、申込書は、事務局に請求するか、WEB サイトでも入手できます。

応募の締切は11月12日(水)(必着)です。応募方法は、参加申込書を事務局宛に送付してください。詳細は下記に問い合わせてください。

【応募・問合先】102-0091 東京都千代田区北の丸公園2-1 (財)日本科学技術振興財団 振興事業部内 サイエンスキャンプ事務局 TEL 03-3212-2454 FAX 03-3212-0014 E-mail camp@jsf.or.jp ホームページ <http://spp.jst.go.jp>

公 募

●平成21年度東京大学海洋研究所で共同利用研究の公募がされています。

応募資格は、国・公・私立大学および公的研究機関で、海洋科学に関する研究を行う研究者ならびにこれに準ずる者として。

共同利用研究の種別:(1)海洋研究所(中野地区)【外来研究員】所外の研究者が本所に滞在して研究を行う便宜を提供します。【研究集会】1～2日間のシンポジウム(海洋研究所での開催を原則とします)、(2)国際沿岸海洋研究センター【外来研究員】センターに滞在して研究を行う便宜を提供します。【研究集会】少人数の研究者による討論集会等です。

申込締切は、11月28日(金)(必着)です。申込の公募要領、申請書類は東京大学海洋研究所ホームページ

(<http://www.ori.u-tokyo.ac.jp/>)に掲載されています。

【申込・問合せ】◎東京大学海洋研究所：164-8639 東京都中野区南台1-15-1 総務課研究協力係 TEL 03-5351-6354, 6355, 6370, 6373 (ダイヤルイン) FAX 03-5351-6836 E-mail kyoudou@ori.u-tokyo.ac.jp ◎国際沿岸海洋研究センター：028-1102 岩手県上閉伊郡大槌町赤浜2-106-1 TEL 0193-42-5611 FAX 0193-42-3715

●(財)ソルト・サイエンス研究財団による平成21年度の 研究助成が募集されています。

【一般公募研究】助成対象：農学・生物学分野（塩・海水に関わる生物の研究）／助成期間：平成21年4月1日～平成22年3月31日／助成件数：A 区分2件程度，B 区分4件程度／助成金額：A 区分（1件当たり100～200万円），B 区分（1件当たり100万円以下）です。

【プロジェクト研究】助成対象：農学・生物学分野（研究テーマを「作物栽培に及ぼす海水の影響」とし，次のサブテーマを設定しています。（1）風による海水飛散の実態の解明，（2）海水の作物成育への直接的影響の解明，（3）海水の土壌微生物あるいは土壌微生物を介した作物成育への影響の解明，（4）海水を積極的に利用する栽培法の解明・開発／助成期間：平成21年4月1日～平成24年3月31日（3年間）／助成件数：4～5件程度／助成金額：1件当たり年間150～200万円程度

応募の資格は，日本国内の大学，公的研究機関等で研究に携わる（学生・研究生は除く）若手研究者の積極的な応募を期待します。詳細はホームページをご覧ください。

応募希望者は，財団ホームページから募集要領をダウンロードしてください。応募期間は平成20年11月1日（土）～12月20日（土）（必着）です。

【申込先】106-0032 東京都港区六本木7-15-14 塩業ビル3階（財）ソルト・サイエンス研究財団 TEL 03-3497-5711 FAX 03-3497-5712 E-mail saltscience@mve.biglobe.ne.jp ホームページ <http://www.saltscience.or.jp>

求 人

●北海道大学大学院先端生命科学研究院先端生体制御科学分野で，教授1名が公募されています。

専門分野は「脳・神経系の構造と機能」です。神経行動学を基幹として，独創的な分野を開拓する研究者を求

めます。候補者には，大学院・学部等の運営に参画するとともに，外部競争資金に基づいて独立な研究室を運営することが求められます。平成21年4月からの着任を予定しています。

提出書類は，1）履歴書（押印，写真添付），2）研究業績目録（原著論文，総説・著書，その他に分類して作成すること。原著論文は査読制のある学術雑誌に掲載された論文に限定し，査読制のない学術誌の場合にはその他に入れること。），3）主要論文別刷（5編以内，コピー可，研究業績目録に○印を付けること。），4）現在までの研究の概要と，着任後の研究・教育に対する抱負（あわせて5,000字程度），5）本人に関して参考意見を求める方2名の氏名および連絡先，6）その他参考になる事柄（研究費取得状況，学会賞，学会活動歴など）です。推薦状は不要です。

応募書類は，封筒に「先端生体制御科学分野教授応募」と朱書きし，書留または宅配便等でお送りください。応募締切は平成20年11月14日（金）（必着）です。選考の段階で応募者の方にセミナーを行っていただく場合があります。なお，お送りいただいた資料は，あらかじめお申し出があった場合に限りお返しします。

本公募で採用された教授は，大学院先端生命科学研究院の所属となり，神経行動学グループ（教授 高畑雅一，松島俊也，本公募；准教授 和多和宏，小川宏人（平成20年10月赴任予定））の一員として研究教育に参加していただきます。大学院生命科学院（生命システム科学コース・行動制御科学分野）の教育と研究指導，理学部生物科学科（生物学）の講義と実習に加え，生物学関連の全学教育科目を担当することが求められます。

【応募書類送付先・問合せ】060-0810 札幌市北区北10条西8丁目 北海道大学・大学院先端生命科学研究院・先端生命科学部門先端生命分子科学分野 高橋孝行 TEL 011-706-2748 E-mail ttakaha@sci.hokudai.ac.jp

●北海道大学大学院理学研究院生理学部門生命機能科学分野で准教授1名が公募されています。

専門分野は，「生殖生物学」・「発生生物学」です。主に脊椎動物を実験材料とし，性分化，生殖細胞形成，受精，初期発生，器官形成などの生殖発生現象における根本的かつ重要な課題について，分子細胞生物学的手法を用いた研究を展開している方を希望します。また，大学院生命科学院での学生の教育・研究指導，理学部生物科学科（生物学）での講義と実習，および全学教育（大学

初年時教育)での生物学関連科目を担当することが求められます。着任予定時期は平成21年4月1日です。

提出書類は、1)履歴書(押印、写真貼付)、2)研究業績目録(原著論文、総説・著書、その他に分類して作成)(原著論文は査読制のある学術誌掲載論文に限定し、査読制のない学術誌の場合は「その他」に入れて下さい。)、3)主要論文別刷(5編以内、研究業績目録に○印)、4)現在までの研究の概要と着任した場合の研究・教育に対する抱負(3,000字程度)、5)本人に関し参考意見を求め得る方2名の氏名および連絡先、6)その他参考となる事柄(研究費取得状況、学会賞等の受賞歴、学会活動歴など)です。推薦状は不要です。

応募書類は、封筒に「生命機能科学分野(生殖発生科学)准教授応募」と朱書き、書留または宅配便等でお送り下さい。応募締切は平成20年11月28日(金)(必着)です。選考の過程で応募者の方にセミナーを行っていただく場合もありますことを、ご承知おき下さい。資料の返還を希望される方は、応募の際にその旨を明記して下さい。

本公募で採用された准教授は大学院理学研究院の所属となりますが、日常的な研究・教育は、理学部5号館において大学院生命科学院・生命システム科学コース・生殖発生科学分野担当グループ(清水 隆、高橋孝行、山下正兼教授;木村敦准教授;荻原克益、小谷友也助教)の一員として行っていただきます。

【応募書類送付先・問合せ】 060-0810 札幌市北区北10条西8丁目 北海道大学大学院理学研究院生命理学部門生命機能科学分野 松島俊也 TEL 011-706-3523 E-mail matusima@sci.hokudai.ac.jp

●北海道大学低温科学研究所 生物環境部門(平成20年10月1日改組予定)で助教1名が公募されています。

採用分野は、光合成に関連する分野です。生理・生化学的、分子生物学的あるいはバイオインフォマティクスの手法により研究する方を希望します。低温科学研究所は、寒冷圏および低温環境下における自然現象の基礎と応用の研究を目的とする全国共同利用の研究所であり、その中で当該部門では、寒冷圏における生物と環境との相互作用、生物多様性および環境適応機構に関する研究を中心課題としています。研究所の概要、関連する研究分野のスタッフについては、当研究所のホームページ(<http://www.lowtem.hokudai.ac.jp/>)をご覧ください。教育は、北海道大学大学院生命科学院を担当して頂く予定です。着任時は、平成21年4月1日またはそれ以降のな

るべく早い時期です。任期は5年です。助教としての再任は1回に限り、再任後の任期は5年とします。

提出書類は、1)履歴書(連絡先、大学入学以降の学歴、研究・教育歴、学位、受賞歴など)、2)研究業績目録(査読制度のある学術誌に発表した原著論文、総説、著書、その他などに分ける)、3)主要論文別刷5編以内(コピー可。研究業績目録に印をつける)、4)これまでの研究概要(2,000字程度)、5)着任後の研究計画・展望および教育に対する抱負など(2,000字程度)、6)応募者についての意見を伺える方2名の連絡先(氏名、所属と連絡先電話番号および電子メールアドレス)です。応募締切は、平成20年12月15日(月)(必着)です。郵送の場合は、表書に「生物環境部門・助教応募書類」と朱書き、書留でお送りください。応募のために提出して頂いた応募書類等は選考の目的に限り使用します。選考終了後は、選考を通過した方を除き、すべての個人情報(当研究所が責任を持って廃棄し、返却はいたしません。

【書類提出先】 060-0819 札幌市北区北19条西8丁目 北海道大学低温科学研究所長 香内 晃

【問合せ】 北海道大学低温科学研究所 教授 田中 歩
TEL 011-706-5493 FAX 011-706-5493 E-mail ayumi@pop.lowtem.hokudai.ac.jp.

そ の 他

●(財)日本生命財団による公募がありましたことは既にお知らせしましたが[436]、次の方に決まりました。

平成20年度ニッセイ財団環境問題研究助成:

個別研究助成:北海道大院地球環境科学・大原 雅
(他計3名)ほか11件

書 評

日本の哺乳類学 第1巻小型哺乳類 本川雅治編、東京大学出版会、2008年、311頁、4,400円(本体価格)

本書は冒頭から、私たち専門外の物にとって、生きた姿を見たことも無いモグラを分かりやすく研究者の立場から書き綴られているところから始まった。続くネズミ類やコウモリ類と詳細な研究成果を10章まで読み進めていくと、『野ネズミと堅果との関係』『アカネズミのタンニン防御メカニズム』10.4 “タンニンに対する生理的防御——訓化によるタンニンの無害化(3)訓化の効果を

検証する——堅果供餌実験再び」の項では、総称ドングリに含まれるタンニンが、被食防御作用を持っているが、それをどのように被食者であるアカネズミが解毒しているかを、供餌実験により解き明かそうとするくだりは大いに興味をそそられました。なかでも訓化実験の結果が「アカネズミは漸増的にタンニンを摂取することによってタンニンに対する生理的な訓化を獲得し、タンニンによる負の影響を克服することができることを端的に示している」と導き出していて「アカネズミは、大量の堅果が落下し集中的に堅果を利用する前に、早い段階に落下した堅果を少しずつ摂取することによってタンニンに対する訓化を獲得しているのではないかと考えている。」と結論付けていることと、合わせて小動物の自然に対する順応力に驚かされました。

日本の哺乳類学シリーズ本巻は、学術書の形式をとりながらも、読者に提供する研究課題が、どれをとっても興味を持たせながら研究を解説していることに敬服します。哺乳類の研究者に関わらず多くの方が本書を手に取り、一読されますことをお勧めします。

((財)環境科学総合研究所 勝倉光徳)

日本の哺乳類学 第2巻中大型哺乳類・霊長類 高槻成紀、山際寿一編、東京大学出版会、2008年、472頁、5,000円(本体価格)

本書は、2題の序章と本編16章にわたってそれぞれの分野における専門家が、詳細の研究成果を披瀝している。なかでもⅠ『種と生態』2章の「生活史生態」ニホンアナグマについては、一般人はその存在すら殆ど知られてない小動物をテーマに論戦を進めています。それに小動物における生存競争の勝ち残り戦略の披露には興味をそそられるものがありました。また6章「社会構造と密度変動」の社会構造の項でニホンカモシカのなわばりについての観察結果が異性に対する“なわばり”の論理が働かないということにも、私自身が、新たに動物に対しての生存競争への保険的習性を感じたのも正直なところでした。

Ⅲ『保全と生態』11章の「絶滅危惧種の保全」ではイリオモテヤマネコが取り上げられていますが、発見当時は1種1属とされていましたが現在は、国内外とも、DNA分析から、ベンガルヤマネコの亜種とされ、イリオモテヤマネコは遺伝学的多様性が乏しいことも明らかになっていることなど、保護や保全に関しては地域の生活者のこともあります。慎重かつ大胆な取り組みが必

要であると感じています。

細長い日本列島、北の北海道にはキタキツネやエゾヒグマがいて、四国九州を含む本州にはニホンサルやホンダヌキと南の西表島にはイリオモテヤマネコがいるように多種多様な中大型の哺乳類の詳細について、学術的なことを含め、多くの事柄を楽しむことが出来ました。3巻に亘っての第2巻が多くの方に読まれんことを末文ながらここに推薦します。

((財)環境科学総合研究所 勝倉光徳)

シリーズ21世紀の動物科学 第2巻 動物の多様性 片倉晴雄、馬渡峻輔共編、培風館、2007年、226頁、3,600円(本体価格)

「中生動物」「オストラコーダ」「オサムシ」「メダカ」。これらが本書で取り上げられている動物達である。それに生物多様性及び分類に関する情報学の章が二つと、御大二人による序章と終章を加えた全8章226頁から成る。

最初と最後を除く六つの章では、いずれも日本発の動物多様性研究の代表といえる事例が、当事者の手により活き活きと紹介されている。具体的な動物群を扱った四つの章での、各々の研究のバックグラウンドや動機から始まって、各々の動物群が抱える多様性に関わる数々の謎を、様々な技法を駆使しながら(おそらくはセレンディピティをうまく捉えつつ)解きほぐしていく展開は、研究者の至福というものを感じさせる。今や「動物の多様性」に関する研究には、多角的なアプローチが必要不可欠であり、またその事が研究そのものを魅力的なものにしている事がよく伝わってくる。情報学関連の二つの章では、今や絶滅危惧種と擲掄される分類学の衰退に対し、当事者である分類学者達よりもむしろ真剣に危機感を募らせている二人の研究者により、一方が、分類学者の養成には他の分野に比べ長い時間がかかる事を踏まえての「分類学の延命措置」という観点から、もう一方が、分類学の前近代性を憂い、分類学者となる(というより生物の分類をするという行為の)敷居を下げるという観点から、論を進めている。この分野は、今はまだ分類学の未来に対する燭光でしかないが、いずれ旭日へと「進化」する可能性を感じさせる。ここであえてこの分野に二つの章を割いた事に対して、後世の研究者から先見の明があったと賞賛される事になるのかもしれない。

このように個々の章は大変魅力的で、広く動物の多様性に関する研究分野の末席を汚している私としては、その内容を大いに楽しむ事が出来た。ただ「動物の多様性」

という本書のタイトルから期待していた内容からは、ずいぶんかけ離れているという印象を持ったのも事実である。もちろん「21世紀の動物科学」というシリーズ全体のコンセプトとしては、本書のスタイルは正解なのであろうが、シリーズ全体のテーマを包含してしまうような、このタイトルはいただけない。もう少し実際の内容に合ったものにして欲しかった。確かに個々の章は、動物多様性研究における輝かしい一つの点なのであるが、「動物の多様性」の全体像を概観するには、点の数があまりにも少なすぎるのである。

(京都大学・フィールド科学教育研究センター・
瀬戸臨海実験所 宮崎勝己)

===== 寄贈図書の書評希望者募集 =====

生物科学ニュース編集委員会では、本委員会に寄贈されました下記の本の書評希望者を募集いたします。謝礼と致しまして書評した本を差し上げます。希望者は編集委員会まで葉書、FAX または E メールでご連絡ください。書評をお願いする場合は本と執筆要領をお送りいたします。但し希望者多数の場合、どなたをお願いするかは編集委員会に一任願います。尚、出版社より編集委員会に書評依頼のあった単行本以外の書評、および書評の投稿は受け付けておりませんのでご了承ください。お書きいただいた書評は、生物科学ニュースのみならず、日本動物学会および日本植物学会のホームページにも掲載される場合があります。この点を、あらかじめご了承ください。

分子遺伝学入門－微生物を中心にして－ 東江昭夫著 260頁 2007年 裳華房 2,600円(本体価格、以下同)／コア講義 分子生物学 田村隆明著 132頁 2007年 裳華房 1,500円／生物がつくる〈体外〉構造－延長された表現型の生理学－ J・スコット・ターナー著 滋賀陽子訳 深津武馬監修 333頁 2007年 みすず書房 3,800円／昆虫の保全生態学 渡辺 守著 190頁 2007年 東京大学出版会 3,000円／細胞[基礎分子生物学第3巻] 猪飼 篤, 川喜田正夫, 星 元紀編集 黒岩常祥, 三角修己, 高野博嘉, 伊藤竜一, 松永幸大著 152頁 2008年 朝倉書店 3,400円／ポピュラー・サイエンス284 細胞膜のしくみ－構造と機能－ 八幡義人著 200頁 2008年 裳華房 1,600円／ポピュラー・サイエンス285 バイオインフォマティクス－生命情報学を

考える－ 館野義男著 140頁 2008年 裳華房 1,500円／文系のための生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会編 159頁 2008年 羊土社 2,800円／生物学第2版 石川 統編 守 隆夫他著 232頁 2008年 東京化学同人 2,400円／免疫学はやっぱりおもしろい 小安重夫著 238頁 2008年 羊土社 2,800円／バイオディバーシティ・シリーズ6 節足動物の多様性と系統 岩槻邦男, 馬渡俊輔監修 石川良輔編集 495頁 2008年 裳華房 6,300円／匂いによるコミュニケーションの世界－匂いの動物行動学－ 小山幸子著 224頁 2008年 フレグランスジャーナル社 3,000円／大阪市立自然史博物館叢書－(3) 干潟を考える干潟を遊ぶ 大阪市立自然史博物館・大阪自然史センター編著 159頁 2008年 東海大学出版会 2,500円／生物学オリンピック問題集 国際生物学オリンピック日本委員会編 125頁 2008年 羊土社 1,600円／からだをまもる免疫のふしぎ 日本免疫学会編集 69頁 2008年 羊土社 1,800円／微生物学－地球と健康を守る－ 坂本順司著 190頁 2008年 裳華房 2,500円／学術選書035 ヒトゲノムマップ 加納 圭著 401頁 2008年 京都大学学術出版会 2,200円／ミクロの世界の仲間たち アーサー・コーンバーグ著 宮島郁子訳 新井賢一監修 86頁 2008年 羊土社 2,500円／医学・医療系のための生物学の基礎知識－生命の誕生・くすり・再生医療まで－ 都河明子著 190頁 2008年 丸善 2,000円／「理科少年」が仕事を変える、会社を救う－「人性」をイノベーションする新思考法－ 出川 通著 191頁 2008年 彩流社 1,500円／よくわかる生物電子顕微鏡技術－プロトコル・ノウハウ・原理－ 白倉治郎著 208頁 2008年 共立出版 8,800円／宇宙生物学入門－惑星・生命・文明の起源－ P. ウルムシュナイダー著 須藤 靖, 田中深一郎, 荒深 遊, 杉村美佳, 東 悠平訳 343頁 2008年 シュプリンガー・ジャパン 3,900円／ファーストブック 生命科学がわかる－生物の生きるしくみをミクロの視点で理解する－ 工藤佳久, 都筑幹夫著 205頁 2008年 技術評論社 1,780円／身近な植物に発見! 種子たちの知恵 多田多恵子著 160頁 2008年 NHK 出版 1,400円

【連絡先】 113-0033 東京都文京区本郷2-27-2 東真ビル 生物科学ニュース編集委員会 FAX 03-3814-6216 E-mail chu@hc.cc.keio.ac.jp または sawa@biol.s.u-tokyo.ac.jp

「生物科学ニュース」の購読・ご利用のおすすめ

近年の生命科学の進歩はめざましく、新しい分野が次々と開かれ、その結果として新しい学会や雑誌が次々と設立・刊行されると共に、日々各種の会合がめまぐるしく催されております。もはや個々の学会や個人がこれらの情報を処理していける時期ではなくなってきております。

この時代に対処してゆくために「生物科学ニュース」は日本動物学会および日本植物学会の和文情報誌として、会員への情報伝達、広報はもちろん、生物学に関連した学会・国際会議・シンポジウム・講演会・研修会などの開催予定とプログラム、人事・研究助成金などの公募記事、書評、関連分野の動向などを中心に、幅広く生物科学関連ニュースをもりこみ編集・刊行されています。

「生物科学ニュース」は両学会の約5,000名の会員に配布されていますが、会員以外の個人の方あるいは機関でもご購入いただけます。この機会にぜひご購入くださいますようお願い申し上げます。ご送付先、お電話番号など明記のうえ下記あてハガキ、またはファックスなど書面でお申し込みくだされば折り返し請求書をお送り申し上げます。

記

「生物科学ニュース」 月刊（毎月20日発行）／B5判／毎号平均22頁

編集・発行 生物科学ニュース編集委員会 （日本動物学会・日本植物学会）

年間購読料 3,100円（税込・送料無料）

- ※ 購読料は原則として年間前払いをお願いしております。
- ※ ご希望の月号からご購入いただけますが、1月号から12月号までの12冊を一期間としますため、途中月号からのご購入の場合は初年度のみ月割の購読料となります。以降は購読中止のご連絡をいただかない限り翌年に自動継続し1月号から12月号のサイクルで更新させていただきます。
- ※ 機関購読の場合はご送付先にご担当の個人名をお入れください。
- ※ お支払いに際し特定の書類が必要な場合は作成いたしますのでご連絡ください。
- ※ 見本誌ご希望の場合はお送りいたします。
- ※ すでに購読ご登録の場合はご容赦下さい。

年間購読料 3,100円（改定された場合は別途ご案内します）

〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-2 東真ビル

(社)日本動物学会 (TEL 03-3814-5461 FAX 03-3814-6216)

(社)日本植物学会 (TEL 03-3814-5675 FAX 03-3814-5352)

関連記事掲載を御希望の方は、「生物科学ニュース」最新号を参照の上、記事を簡潔にまとめ、下記編集局宛にお送り下さい。編集委員会が関連記事と認めた場合には無料で掲載させていただきますが、様式の統一のため記事の手直しを行なうことがあります。なお、編集委員会では記事の要約表現の改訂を独自に行なうことがあります。また学会や研究会が独自の記事を出したい時には、その都度必要なスペース（“ひろば”欄）を買い切ることができます。“ひろば”の校正は買い切られた方をお願い致します。

○料金：1 ページ（2,000字） 40,000円

1/2ページ（1,000字） 20,000円

1/4ページ（500字） 10,000円

○記事送付先：〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-2 東真ビル 生物科学ニュース編集局

○原稿をお送り下される場合、以下の点にご留意下さい。

1) 生物科学ニュースに原稿をお送りいただく場合は、生物科学ニュース編集局 (bsnews@bsj.or.jp) に、電子メールの本文または添付書類（テキストファイル、マイクロソフトワードまたはアップルワークス書類に限る。ファイル名に拡張子を付ける。）で、Subject に「ニュース原稿」と記入の上、お送り下さい。フロッピーディスクを郵送いただいても結構です。なお、修飾文字や特殊文字をご使用の際は、同時にプリントアウトしたものをファックス（03-3814-6216）にてお送り下さい。図表等のファイルについては、予めご相談下さい。書式等は生物科学ニュース最新号をご参照下さい。

2) 現在のところ、書評欄への投稿は受けつけておりません。

3) 掲載原稿の締切日（必着）は以下の通りです。

No.445 2009年1月号 2008年11月17日（月）

No.446 2009年2月号 2008年12月1日（月）

生物科学ニュース No.443 2008年11月（月刊）

定価 270円（消費税込）

運営委員会

社団法人 日本動物学会 久保英夫・鈴木 忠・吉田 学 (<http://www.soc.nii.ac.jp/zsj/zool/>)

社団法人 日本植物学会 永田典子・澤 進一郎・小関良宏 (<http://bsj.or.jp/>)

編集委員会

社団法人 日本植物学会 岩井宏暁・植村知博・水澤直樹・本瀬宏康・澤 進一郎（幹事）

社団法人 日本動物学会 阿部秀樹・佐藤 恵・立花和則・広橋教貴・鈴木 忠（幹事）

発行 (社)日本動物学会・(社)日本植物学会 生物科学ニュース編集委員会 〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-2
東真ビル/FAX 03-3814-6216

印刷 昭和情報プロセス株式会社 〒108-0073 東京都港区三田5-14-3 TEL 03-3452-8451

購読申込：生物科学ニュース編集委員会／〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-2 東真ビル
FAX 03-3814-6216
